

事業名

女性からの政策提言講座 女性たちよ、この社会の羅針盤になろう！ —男女共同参画の視点から地域の災害・防災への政策提言—

実施主体

埼玉県県民生活部男女共同参画課

埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1

Tel. 048-830-2927 Fax. 048-830-4755

E-mail. a2920@pref.saitama.lg.jp

URL <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/d08/>

課について

「埼玉県男女共同参画推進条例」や「埼玉県男女共同参画基本計画」に基づき、各種施策を実施し、男女共同参画を総合的かつ計画的に推進している。男女共同参画関連施策の全庁的な促進を図るほか、男女共同参画社会の実現に向けた総合的な拠点施設である埼玉県男女共同参画推進センターと連携して県民や市町村の取組を支援している。

また、男女共同参画社会の実現を妨げる大きな要因となっているドメスティック・バイオレンス（DV）については、DVの防止と被害者に対する自立支援のため、総合対策事業を実施している。

事業内容の紹介

男女共同参画社会とは男女があらゆる分野で利益を享受することができ共に責任を担うべき社会であるが、その基盤となる政策や方針の立案及び決定への女性の参画は、いまだ十分とはいえない。

そこで、埼玉県では、女性のチャレンジ支援の一環として、市町村の審議会など様々な場で政策提言できる女性を発掘し育成するため、女性が地域課題の発見から解決に向けたノウハウや技術を学び政策提言を行うための「女性からの政策提言講座」を平成23年度から新たに開催することとした。

実施までの経緯

この事業の実施に当たっては、民間団体との協働を推進し、その活動を支援するため、講座の開催事業を民間団体に委託することとした。受託団体の選定は企画提案方式により行い、所沢市を中心に活動する「グループまあるい(代表 山崎美代氏)」の企画を採用した。

その内容は、阪神淡路大震災、新潟県中越地震に引き続いて東日本大震災の際にも防災・復興対策において「女性の視点の欠如」が問題となったことに着目したものである。男女共同参画の視点からの地域の災害・防災への政策提言をテーマとして、地域の女性たちが、地域の防災、男女共同参画施策を点検し、日々の生活経験を踏まえた政策提言へのプロセスを通じて、他の課題へも応用できる力を育む講座運営を目指すものであった。

また、今後県内市町村での事業展開が図られるよう、県内3市と共催で講座を開催することとし、会場は各市の男女共同参画センターとするなど市からの協力を得て開催した。

学習プログラムの概要

女性からの政策提言講座「女性たちよ、この社会の羅針盤になろう！ー男女共同参画の視点から地域の災害・防災への政策提言ー」は、男女共同参画の視点から地域の災害・防災を見直し、その中で課題を発見し、政策提言に至るまでのノウハウを学ぶものである。

所沢、熊谷、越谷の各市の男女共同参画センター3か所で各3日の講座を開催後、埼玉県男女共同参画推進センター（With You さいたま）において、「With You さいたま フェスティバル」のオープニング企画として成果発表を行った。



講座風景

第1日目は、本講座の全体を展望する内容で、「災害・復興行政と男女共同参画政策」をテーマに皆川満寿美氏による講義を行った。この後、グループ毎に全員が意見や感想を出し合い、最後に各グループの代表がその結果を報告した。後半のワークショップでは、震災や災害時の各自の体験を紙にし、次にグループでの話し合いを行った。

第2日目は、前半は「平和といのちー人間の安全保障」のテーマに高里鈴代氏による講義を行った。後半のワークショップでは、1日目に出てきた課題を「地域コミュニティ／自治会」、「備蓄」、「脆弱性を有する方への対応」、「情報」、「防災訓練」、「避難所の生活」、「防災計画／男女共同参画計画」の7つのテーマに括りグループを編成、政策提言に向けて課題を絞る話し合いを進めた。また、各受講生には地元の自治体の男女共同参画推進条例、男女共同参画計画、防災計画について自主的に調べるよう課題を提示した。

第3日目は、会場ごとに講師とテーマを変えて開催した。所沢会場では「女性とメディア～声をあげていくために（講師：竹信三恵子氏）」、熊谷会場では「地方自治と男女共同参画（講師：堂本暁子氏）」、越谷会場では「女性と人権ージェンダーの視点から見た被災者支援と復興（講師：伊藤和子氏）」をテーマとした講義を行った。後半のワークショップでは、グループ毎に成果発表会に向けた準備を行った。

成果発表会は、第一部では3会場14グループの代表者から政策提言を行った。アドバイザーの皆川



成果発表会

満寿美氏からのコメント後、受講生全員がそれぞれ「30秒スピークアウト」を行った。第二部では「平和といのちー災害・復興行政と男女共同参画政策ー」というテーマに平賀圭子氏と赤石千衣子氏をパネラーに迎え、皆川満寿美氏の司会進行によりパネルディスカッションを行い、被災地支援から見えてくる課題や報道されない被災地の現状などを紹介した。

学習プログラムの具体的構成

第1日目（平成23年11月13日（所沢）、11月20日（熊谷）、11月24日（越谷））

時間／ 上段は所沢会場 ・熊谷会場 下段は越谷会場	学習内容	ねらい
14:00～14:20 10:00～10:20	はじめに／本講座について グループまあるい 主催者挨拶	
14:20～15:35 10:20～11:35	講義「災害・復興行政と男女共同参画政策」 講師：皆川満寿美氏（大学非常勤講師・東京大学特任研究員）	女性達が自分の潜在能力に気付き、地方自治体の男女共同参画計画や防災計画等を見直し、地域生活の真の主役になるために政策提言力をつける必要性を学ぶ
15:35～15:50 11:35～11:50	講義ふりかえり（ワールドカフェ）	決められた時間内でグループ全員が話し合い、その経過を一定時間に報告することを学ぶ
15:50～16:00 11:50～12:00	休憩	
16:00～16:50 12:00～12:50	ワークショップ ①「3.11被災の時、困ったことは何ですか？」 ②「災害で不安で思うことは？」	決められた時間内で、グループの全員が発言し、お互いの発言を尊重することや一定時間内に報告することを学ぶ
16:50～17:00 12:50～13:00	アンケート記入	

第2日目（平成23年12月9日（所沢）、12月10日（熊谷、越谷））

時間／同上	学習内容	ねらい
14:00～14:10 10:00～10:10	第2日目にあたって グループまあるい	
14:10～15:25 10:10～11:25	講義「平和といのち一人間の安全保障ー」 講師：高里鈴代氏（元那覇市議会議員、強姦救援センター・沖縄（レイコ）代表）	一人ひとりの人間が可能性を実現する機会と選択肢を手にし自ら脅威に対処できるようになることを目指す「人間の安全保障」は、「地域の災害・防災への政策提言」を考える上でも、大切な理念だということを知る

15:25～15:45 11:25～11:45	講義ふりかえり（ワールドカフェ）	決められた時間内でグループ全員が話し合い、その経過を一定時間に報告することを学ぶ
15:45～15:55 11:45～11:55	休憩	
15:55～16:50 11:55～12:50	ワークショップ ①オリエンテーション 政策提言に向けて ②グループでの話し合い 政策提言骨子づくり	課題を大きなテーマに括り、関心のあるテーマ毎にグループを編成、政策提言に向けて課題を絞るための話し合いを行う
16:50～17:00 12:50～13:00	ひとこと感想記入	

第3日目（平成24年1月8日（所沢）、1月15日（熊谷）、1月19日（越谷））

時間／同上	学習内容	ねらい
14:00～14:10 10:00～10:10	第3日目にあたって グループまあるい	
14:10～15:25 10:10～11:25	<所沢会場> 講義「女性とメディア～声をあげていくために」 講師：竹信三恵子氏（和光大学教授、東日本大震災女性支援ネットワーク共同代表、元朝日新聞編集委員）	災害時に女性の視点を可能にするには何が必要か、想像力を働かせることの大切さを学ぶ
	<熊谷会場> 講義「地方自治と男女共同参画」 講師：堂本暁子氏（前千葉県知事、女性と健康ネットワーク代表）	平常時において、あらゆる領域、特に意思決定の場における男女共同参画の視点を徹底することなど、全ての人々が問題を共有することが必要であることを学ぶ
	<越谷会場> 講義：「女性と人権—ジェンダーの視点から見た被災者支援と復興」 講師：伊藤和子氏（弁護士、国際人権NGOヒューマンライツ・ナウ事務局長）	東日本大震災被災地の調査を通じて、私たち一人ひとりが人権の主体であること、その自覚の大切さを学ぶ
15:25～15:35 11:25～11:35	質疑応答	
15:35～15:45 11:35～11:45	休憩	
15:45～16:50 11:45～12:50	ワークショップ ①グループワーク 政策提言に向けて ②成果発表会と今日の進め方の説明	成果発表会に向けた準備
16:50～17:00 12:50～13:00	ひとこと感想、成果発表会出欠記入	

第4日目（平成24年2月3日：成果発表会）

時間	学習内容	ねらい
13:30～13:40	挨拶（埼玉県、グループまあるい）	
13:40～15:20	①政策提言講座受講生からの「政策提言」発表 ②講師からのコメント ③ひとこと発言「30秒スピーク・アウト」	受講生に受講の成果を多くの観衆の前で発表する機会を提供する
15:20～15:30	休憩	
15:30～16:50	パネルディスカッション 「平和といのちー災害・復興行政と男女共同参画政策」 <パネラー> ・赤石千衣子氏（NPO 法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ理事、ふえみん婦人民主新聞編集長、東日本大震災女性支援ネットワーク世話人） ・平賀圭子氏（NPO 法人参画プランニング・いわて理事長） <司会進行> ・皆川満寿美氏（大学非常勤講師・東京大学特任研究員）	災害時には男女の性別による固定的な役割分担が強化され男女共同参画社会実現の妨げになっている様々な課題が顕著なることを紹介し、平時からの「女性の視点」の必要性について参加者と共に考える
16:50～17:00	挨拶（共催市、グループまあるい）、感想記入	

教材（例）

第2回目講座への課題（第1回目 ワークショップ 2011年11月 所沢、熊谷、越谷共通）

<女性からの政策提言講座> 女性たちよ、この社会の羅針盤になろう！ -男女共同参画の視点から地域の災害・防災への政策提言-

(1) 所沢市では、11/26 防災訓練が予定されています。（他の市の方も）参加して、次回報告して下さい。
参照チェック項目
「間仕切りある？」
「女性スペースは？」
「キッズコーナーは？」
「更衣室は男女別？」
「来いずの人が来てほしいようぶ？」
「物資は女性ニーズのものある？」 など

(2) 防災と女性 各自治体でのチェックしてみましょう。

- 地域防災計画はいつ策定されたものか、その中に女性の防災分野への参画が記述されているか。
- 男女平等条例や行動計画に防災と女性に関するまたは関連する記述があるか。（条例や行動計画はいつ策定されたか）
条例名、施行日、視点に関する条例、行政の業務に体制の整備・財政に関する言及、施設名、設置日
- 避難所運営マニュアルなど避難所運営に関する指針などに、避難所における「女性への支援」の視点が盛り込まれているか。
- 防災会議の女性委員は何人か（委員総数も）。また、防災会議条例に、「その他特に首長が必要であると認めた者」が委員になれることが謳われているか。
- 避難所運営協議会の運営本部メンバーに女性の占める割合
- 東日本大震災を受け、地域防災計画の見直し（修正）を多くの自治体は行うことになるが、ジェンダーの視点（女性の参画や女性への視点など何でもよい）をもちこむ見直しを図る予定か。

*必要資料
・地域防災計画
・男女共同参画推進条例条例
・男女共同参画行動計画
・避難所運営マニュアル
・防災会議
・防災会議条例 など

企画時や実施時に工夫したこと

この事業の実施に当たっては、民間団体との協働を推進し、その活動を支援するため、講座の開催事業を民間団体に委託することとした。

委託先は、企画提案方式により募集し、「地域の災害・防災」をテーマとした「グループまあるい」の企画を採用した。

理由として、男女共同参画の視点からの防災対策は重要なテーマであること、東日本大震災の影響は埼玉県にもあったため多くの県民が本人又は身内の体験や連日の報道などで被害を身近に感じていたことから意見を出しやすいテーマであり受講意欲が喚起されやすいこと、さらに、防災・復興に向けた当時の社会情勢が受講後何らかの活動をはじめののに良い気運となっていると考えたからである。

講座の実施時には、受講生等が常に確認できるよう、ホームページ上に講座の開催状況を開催後すぐに掲示した。

講座開催後は、受講生が講座で学んだことを思い起こし今後の活動に役立てる一助となるよう、また、県や市町村が今後の事業展開の参考とできるよう、講座の開催状況や受講生の感想を一冊にまとめ、報告書『羅針盤』を作成し配付した。

また、会場となる市と共催とすることにより、講座運営のノウハウや受講生に関する情報を共有し、今後の各市の主催事業等で活用できるよう働きかけた。

参加者の声

- 問題点がはっきり見えて、自分が何をすべきかを考えるきっかけになりました。
- 同じようなことを考えている人が他にも大勢いたことがわかり、自分に自信が少しつきました。
- ただ聞いているだけと気軽に受講しましたが、今の切迫した日本の状況の中、もっと私たちも政策提言できる実力をつけるべきだと強く感じ、できる限り勉強し直しました。さらに学び行動する覚悟を決めました。
- 女性からの政策提言講座は難しいと思いましたが、地域で男女共同参画について地元に戻り、生かしていきたいと思います。
- 3会場での課題、解決、提言の内容が良く似ていること、地域性はありますが、課題～提言は同じだと思いました。グループの話し合いは盛り上がり、ネットワークがつかれそうです。

実施後の状況

講座のカリキュラムにはなかったが、平成24年3月9日、成果発表会后、受講生一同から各グループの提言の内容をまとめた提言書『男女共同参画の視点から地域の災害・防災への政策提言』が埼玉県

知事あてに提出された。

平成24年10月、講座受講生65人に対し追跡調査を実施した。この結果、52.3%の34人から回答があり、受講後何らかのチャレンジをした人は41.2% (14人)であった。このうちこうしたチャレンジが実際に成功したとの回答が複数回答で24件あり、内訳は県や市の審議会などの委員就任が4人、自治会役員就任が1人、NPOなどの地域活動団体に加入が1人、活動団体やグループの設立・運営が1人、個人での活動の実行が6人、その他が11人であった。

また、この講座はそれぞれの会場となった市との共催により平成23年度に開催したものであるが、平成24年度に、市主催の男女共同参画に係るイベントで講座の成果報告をしたり、市主催のワークショップで課題研究をするなど、受講生が地域で活躍している。

なお、平成24年度は「子育て」をテーマに入間と春日部の2か所で講座を開催したが、受講生の中にはさらなるスキルアップを目指し引き続き受講している方もいた。

今後の実施に向けた課題

幅広い年齢層の女性が受講できるよう講座運営を工夫する必要がある。特に子育て中の女性の場合、子どもの成長段階に応じて受講が可能な曜日や時間帯が異なるため、こうしたニーズの把握のほか、託児の実施や拘束時間への配慮が必要となる。

また一方で、限られた時間の中で十分なスキルを身に付けられるよう効率的な講座運営ができる団体を選定し委託することも重要である。

受講生は、意識が高く活動に意欲的な方が多い。こうした受講生に対しこの講座で学んだことを活かし地域の人材として活躍できるよう機会を提供することが必要である。このため、こうした受講生の情報を共催市と共有し、他の主催事業等に参加を呼びかけるなど受講生への継続した機会の提供を働きかけていきたい。

また、女性があらゆる分野で活躍するためには、女性が自らの意識と能力を高め、力をつけ、行動して行くことが求められており、こうした講座等を県内市町村と連携して開催することを通じて、県全体で女性チャレンジの気運を一層高めていく必要がある。